

京極町

ふき出し公園霊場 三十三観音像

名水の里として知られる京極町のふきだし公園内に、町内の住職が昭和初期に
建立した三十三観音像があります。

観音様は災害、病気、悩みに苦しむ人々を救うため、三十三の身に変化するそうです。



ふきだし公園の「湧水口」の案内板の方へ
歩いて行くと・・・



木陰の中に、ひっそりと観音様が並んでいました。



このふきだし公園一帯は、かつて岩内町の梅沢富士郎氏所有のものであったが、昭和の初期に現在の竜門寺の開祖松田玄龍師を通して町に寄付されたものである。松田玄龍師はこの地を観音信仰の霊場とすべく発願したところ多くの人々が宗派を超えて帰依賛同し通宝を寄進し又、労力の奉仕をし現在噴出し口に公園の鎮守として奉安されている不動明王をはじめ、観音菩薩像、十三仏像を含め計五十四体を当時名工の誉れ高く、しかも観音信仰の深かった井出昌徳氏と子息の昌雄氏が寝食を忘れ血のにじむような思いで約二カ年あまりの歳月を費やし彫刻したものである。(後略)



小路を下りていくと湧き水くみ場があり、大勢の人で賑わっていました。その水を見守るように観音像は並んでいます。

